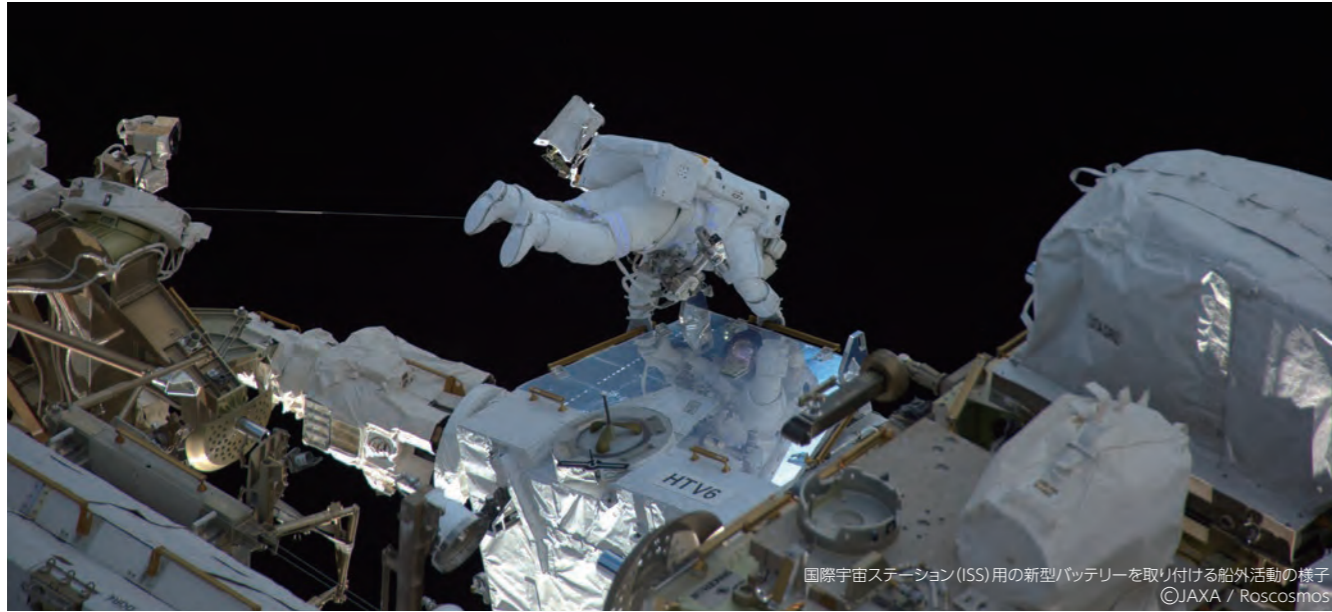


その他事業



中期事業方針 (第五次中期経営計画)

事業方針

最高水準の性能と品質の電池で
新しい社会インフラ構築に
貢献する

戦略および重要課題

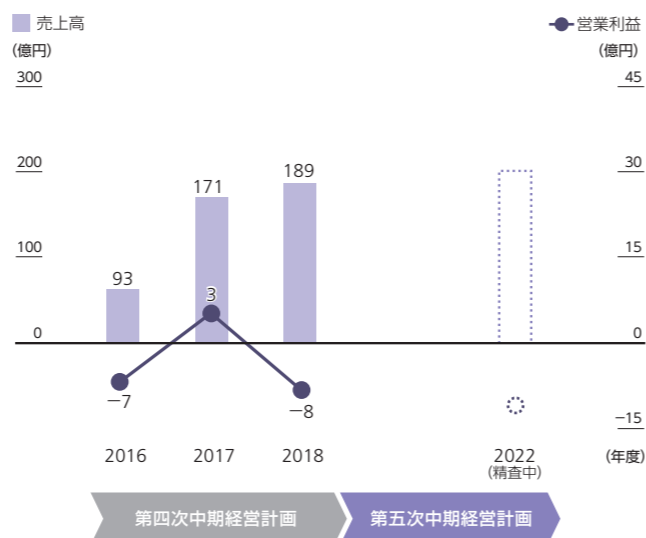
- 潜水艦用リチウムイオン電池の安定供給と品質向上を図る
- 信頼性と耐久性を向上させ、航空機・衛星用リチウムイオン電池を拡販する

「深海」から「宇宙」までの極限環境

過酷な条件下でも電力を供給し続ける蓄電池を提供し、技術力のさらなる向上を図る

業績計画

第五次中期経営計画期間は2019年度から2021年度までとしていましたが、新型コロナ禍の影響を受け2020年度はいったん単年度計画として除外し、最終年度を2022年度(2023年3月期)とした4カ年計画に変更しました。なお、2022年度の事業別業績については現在精査しています。



事業概況

2019年度(2020年3月期)業績

2019年度のその他事業における売上高は185億2500万円(前年度比4億2200万円減)、営業利益は3億2200万円(前年度比10億7700万円改善)となりました。

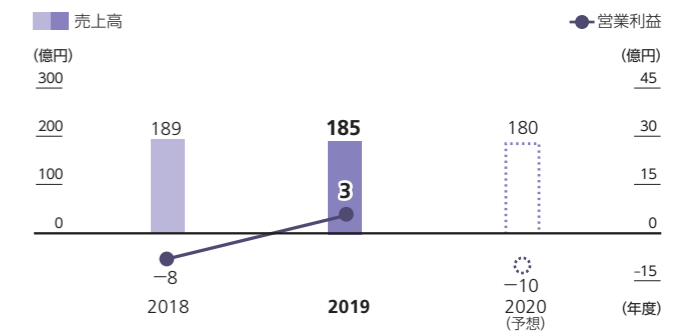
潜水艦用リチウムイオン電池の生産は順調に推移しました。また、航空機用リチウムイオン電池の販売も増加しました。一方、衛星用リチウムイオン電池の販売は減少しました。損益面では、管理部門や研究開発部門の経費削減により前年度に比べて改善しました。

2020年度(2021年3月期)計画

2020年度の業績見通しは、売上高180億円(前年度比2.8%減)、営業損失10億円(前年度比13億2200万円悪化)としています。

当社は引き続き潜水艦用リチウムイオン電池の安定供給を続けるとともに、その技術を他用途へも展開していきます。また、航空機用、衛星用のリチウムイオン電池の拡販にも注力していきます。

業績の推移



In Focus

国際宇宙ステーション用リチウムイオン電池の供給

当社グループ製の国際宇宙ステーション (ISS) 用リチウムイオン電池が、宇宙ステーション補給機「こうのとりの HTV」9号機に搭載され、2020年5月にH-IIBロケット9号機で打ち上げられました。2016年、2018年、2019年に続く4回目で、今回が最終輸送となりました。ISSに輸送されたバッテリーは、宇宙飛行士の船外活動によって、ニッケル水素電池を使用した旧型バッテリーから順次取り換え作業が行われます。

また、ISSへ補給物資を運ぶHTVにも初号機から当社グループ製のリチウムイオン電池が採用されており、2021年以降に打ち上げ予定の新型宇宙ステーション補給機 (HTV-X) への採用も決定しています。当社グループは今後もISSの運用を支えるとともに、宇宙用電池の開発・供給を通じて社会の発展に貢献していきます。



国際宇宙ステーション用リチウムイオン電池(セル)



国際宇宙ステーション